

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) 平成30 年度 (西暦)	②採択期間 (通常A型は5年以 内、B型は3年以 内) 5 年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入) A型
④日本側拠点機関名 (和文)	神戸大学	
⑤研究交流課題名 (和文)	階層横断的グリア脳科学研究のための国際コンソーシアム拠点形成	
⑥課題番号	JPJSCCA20180008	
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	先端融合研究環・特命教授・和氣弘明	
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
東京大学、山梨大学、慶応義塾大学、国立研究開発法人理化学研究所、東北大学、国立長寿医療研究センター、名古屋大学		

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑩に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	7	11	3	14	1	36	0
協力機関・協力研究者	14	46	13	53	0	126	2
合計	21	57	16	67	1	162	2

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
神戸大学医学研究科薬理学分 野・技術補佐員 (承認番号 A18-8-18Y-11)	薬理学・神経科学	RNA-SEQを始めとした遺伝子解析技術による共同研究の遂行

⑪「第三国所属の研究者」内訳 (平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)			
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
オーストラリア・ University of New South Wales・Associate	神経科学	神経科学およびグリア研究に精通し、拠点 における外国人客員教授として研究を実 施。	神戸大学拠点における外国人客員教授の称号付与を行い、てんかんにお けるグリアの寄与を共同で進めていく。
オーストラリア・The Australian National University・Professor	神経科学	光学系に精通し、グリアの多点高速刺激シ ステムの構築を拠点で実施。客員教授の称 号を付与され研究を実施している。	神戸大学拠点における外国人客員教授の称号付与を行い、ホログラ フィック顕微鏡によるグリアの光操作技術の開発を進める。

2. 経費

事業の型 A型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳		金額 (単位:円)	備考
研究 交流 経費	国内旅費※1	329,960	
	外国旅費※1	0	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	12,630,040	
	その他経費	0	
	不課税取引・非課税取引 に係る消費税 ※2	0	受託機関で負担
	計	12,960,000	
業務委託手数料		1,296,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。
合計		14,256,000	

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)  
 新型コロナウイルス感染症により、共同研究をオンラインで協議しながら進めたため、海外旅費および備品・消耗品費に30%に相当する額を超える増減があり、国際共同研究の遂行のための消耗品を購入した。R4年度から交流を再開する予定である。

③ 日本 側 の 旅 費 に よ る	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		329	
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)	日本→日本以外の渡航		0
		日本以外→日本の渡航		0
		日本以外→日本以外の渡航		0
(単 位: 千 円) 未 満 切 捨 て	④ 日本または相手国 →日本の渡航	(単 位: 千 円) 未 満 切 捨 て	左 記 の う ち、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側	日本または相手国 →日本の渡航
	日本又は相手国 →相手国の渡航		日本又は相手国 →相手国の渡航	
	日本または相手国 →第三国の渡航		日本または相手国 →第三国の渡航	
	第三国→ 日本の渡航		第三国→ 日本の渡航	
	第三国→ 相手国の渡航		第三国→ 相手国の渡航	
	第三国→ 第三国の渡航		第三国→ 第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型で平成31年度以前の採択課題のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明
該当なし	

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
0	5	0

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A型							
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→				
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓
R 1	オリゴデンドロサイトの機能解析	ドイツ	○				
R 2	アストロサイト微細突起とシナプス刈り込みの解剖学的検討	カナダ・英国	○	○	○	○	○
R 3	グリア細胞が生み出すMRI信号の特徴抽出	ドイツ	○				
R 4	マウスにおける脳卒中時の脳脊髄液-間質液交換の解析	デンマーク	○	○	○	○	○
R 5	経頭蓋直流電気刺激（tDCS）によるグリア伝達物質放出メカニズムの解明	ドイツ・デンマーク		○	○		
R 6	てんかん病態における、細胞外K <sup>+</sup> 調節機構の破綻	ドイツ		○	○		
R 7	ミクログリアの生理機能と遺伝子発現変化を担う分子基盤	アメリカ		○	○	○	○
R 8	ミクログリアの統合失調症における変化	カナダ・ドイツ			○	○	○
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
<p>【R5・R6ドイツ】2020年8月12日～12月8日のうち5日間、田中謙二氏、大石光洋氏（慶應義塾大学）とChristian Steinhäuser氏、Ronald Jabs氏（ボン大学）で論文のリバイスに対応するためメール会議を行った。2020年7月に6回程度、毛内弘氏（お茶の水女子大学）、平瀬肇氏（コペンハーゲン大学）とChristian Henneberger氏、Petr Unichenko（ボン大学）で論文作成のためのメール会議を行った。2021年1月25日に松井広氏（東北大学）とChristine R. Rose氏（ハインリッヒ・ハイネ大学）で共同研究会議をオンラインで行った。2021年1月25日に松井広氏（東北大学）とFrank Kirchoff氏（ザールラント大学）で共同研究会議をオンラインで行った。</p> <p>【R5・デンマーク】2020年12月～2021年3月の間に月1回程度、平瀬肇氏、Peter Kusk氏、Natalie Hauglund氏、Andrew Samson氏（コペンハーゲン大学）と毛内弘氏（お茶の水女子大学）で論文投稿に係る会議等ならびにリバイスに伴う追加実験等をメール、ビデオにより行った。</p> <p>【R2・英国】年間を通して月1回程度、小泉修一氏、篠崎陽一氏（山梨大学）と大沼信一氏、Alex Leung氏（University College London）で研究打合せ会議・成果報告会をオンラインで行った。</p> <p>【R7・米国】2020年4月から月に一度、合同ミーティングを開催しており、Anne Schaefer氏およびそのラボメンバーとの交流を継続している。Natureなどの成果をあげられており、今後共同研究成果が出ていく予定である。</p> <p>【R8・ドイツ】 Frank Kirchoff氏（ザールラント大学）と和氣弘明で3回共同研究に対して打ち合わせを行い、Anne Schaefer氏（マウントサイナイ大学）がマックスプランクにクロスアポイントになり、ここの共同研究も5回ほど行い、成果が纏まりつつある。</p>							
②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）							
セミナー 整理番号	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地 <small>（国名・都市名・会場名）</small>	開催期間 <small>（○年○月○日～○年○月○日（○日間））</small>			
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業第3回 国際グリア合同セミナー	JSPS Core-to-Core Program The 3rd Glial Heterogeneity SPP1757	ドイツ   Campus Homburg   Saarland大学	中止			
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業第3回 国際グリア若手セミナー	JSPS Core-to-Core Program The 3rd Young Glia Meeting	ドイツ   Campus Homburg   Saarland大学	中止			
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
S1・S2のセミナーについては、新型コロナウイルス感染症により開催中止となったため、共同研究をオンラインで協議しながら進め2022年度から交流を再開する予定である。セミナーに関しては、これまでの国際共同研究の進捗状況を報告するとともに各国から抽出した最先端研究の紹介を行いより一層共同研究を推進させる。各研究室から若手の研究者の交流を促すとともにマッチングを行い、共同研究の打ち合わせを行っている。本セミナーを開催することにより数件の国際共同研究を発掘する。コロナ禍のため海外出張が不可能になったため実施していないが、オンラインをベースに共同研究および国際交流を進展させ、2022年度末から予想される本格的な対面交流の実施に備え、国際神経化学学会で和氣、小泉、小山がカナダのTremblay博士と今後の方針について改めて打ち合わせ、共同研究の遂行状況を確認した。							
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）							
該当なし							
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット							
該当なし							

4. 研究交流状況

事業の型 A型								
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)								
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。 記入例:4(教授級以上1、大学院生3)	
1 ドイツ	0	0	0	0	0	0		
2 カナダ	0	0	0	0	0	0		
3 米国	0	0	0	0	0	0		
4 デンマーク	0	0	0	0	0	0		
5 英国	0	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0	0		
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								
②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。 記入例:4(教授級以上1、大学院生3)	
1 該当なし						0		
計	0	0	0	0	0	0		
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								
③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない 者・その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。 記入例:4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								
④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計		
1 該当なし						0		
計	0	0	0	0	0	0		
⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計		
1 該当なし						0		
計	0	0	0	0	0	0		

5. 交流相手国

事業の型 A型							
①相手国名 (和文)	ドイツ						
②拠点機関名 (和文および英文)							
和文：ザールランド大学 英文：Saarland University							
③コーディネーター所属 所属局名・職名・氏名 (英文)	Molecular Physiology・Professor・KIRCHHOFF, Frank						
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文：エアランゲン・ニュルンベルグ大学 英文：Friedrich-Alexander University of Erlangen-Nurnberg							
和文：ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 英文：Ludwig-Maximilians University Munchen							
和文：ボン医科大学 英文：University of Bonn Medical Center							
和文：ライプツィヒ大学 英文：University of Leipzig							
和文：ハインリッヒ・ハイネ大学 英文：Heinrich Heine University							
拠点機関	2	0	6	9	0	17	
協力機関・協力研究者	24	0	0	2	0	26	
合計	26	0	6	11	0	43	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							
⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：×		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと)			※参考： 日本側研究交流経費 12,960		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		1	Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG)	SPP 1757 "Heterogeneity of glial cells", Koordinator-Funds	0	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名 EUR
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計			0		

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成

5. 交流相手国

事業の型 A型							
①相手国名(和文)	カナダ						
②拠点機関名(和文および英文)							
和文: モントリオール大学 英文: University of Montreal							
③コーディネーター所属部署局名・職名・氏名(英文)	Department of Neuroscience・Professor・ROBITAILLE, Richard						
④協力機関名(和文および英文)(1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文: ラバール大学 英文: University LAVAL							
和文: トロント大学 英文: University of Toronto							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	0	5	6	0	12	
協力機関・協力研究者	2	1	4	9	0	16	
合計	3	1	9	15	0	28	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)		研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							
⑧相手国側の経費負担 負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:ー		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				※参考: 日本側研究交流経費 12,960	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		1	Canadian Insitutes of Health Research	Foundation Scheme	0		
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	Fonds québécois de la recherche-Nature	Research teams	0		CAD	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	Canadian Insitutes of Health Research	Main Operating Grant	0		CAD	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	Natural Sciences and Engineering Research	Discovery grants	0		CAD	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	Canadian Insitutes of Health Research	Foundation Scheme	0		CAD	
(5)相手国側研究者の研究経費	×	Natural Sciences and Engineering Research	Discovery grant	0		CAD	
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	ー	合計			0		

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型							
①相手国名(和文)	米国						
②拠点機関名(和文および英文)							
和文: マウントサイナイ大学 英文: Icahn School of Medicine at Mount Sinai							
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Center of affective Neuroscience・Director・RUSSO, Scott J						
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文: 該当なし 英文: 該当なし							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	3	2	2	3	0	10	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	3	2	2	3	0	10	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)		研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							
⑧相手国側の経費負担 負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:ー		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				※参考: 日本側研究交流経費 12,960	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		1	Icahn School of Medicine at Mount	Mindich Child Health and Development Institute &	0	USD	
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	Icahn School of Medicine at Mount	Mindich Child Health and Development Institute	0	USD		
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	ー	合計			0		

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。  
※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型							
①相手国名 (和文)	デンマーク						
②拠点機関名 (和文および英文)							
和文: コペンハーゲン大学 英文: University of Copenhagen							
③コーディネーター所属 所属局名・職名・氏名 (英文)	Section for Translational Neuroscience・Professor・NEDERGAARD, Maiken						
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文: 該当なし 英文: 該当なし							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	2	4	1	9	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	2	4	1	9	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)						
コペンハーゲン大学・テクニカルスタッフ (承認番号A18-8-18Y-15) (神経科学)							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							
⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				※参考: 日本側研究交流経費 12,960	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
		Novo Nordisk Foundation	Project Grants in Bioscience and Biomedicine	0		DKK	
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	NIH/NINDS/NIA	NIH supported research funds	0		DKK	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	NIH/NIA	NIH supported research funds	0		DKK	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	NIH	NIH supported research funds	0		DKK	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSCRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型							
①相手国名 (和文)	英国						
②拠点機関名 (和文および英文)							
和文: ロンドン大学 英文: University College London							
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Institute of Ophthalmology Faculty of Brain Sciences・Professor・Shin-Ichi Ohnuma						
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
和文: 該当なし 英文: 該当なし							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	0	0	2	0	3	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	1	0	0	2	0	3	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							
⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)				※参考: 日本側研究交流経費 12,960	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		1	MEC	IDENTIFICATION AND CHARACTERISATION OF	0	GBP	
(1)日本側研究者の相手国内滞在費		×	SenSyT-Santen	Single cell analysis for understanding progression	0	GBP	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃		×					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費		×					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費		×					
(5)相手国側研究者の研究経費		×					
(6)相手国開催のセミナー開催経費		×					
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		-	合計		0		

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。